

自己評価				
学校運営計画(4月)			評価(総合)	
学校運営方針	教職員が一丸となり組織的に生徒に基本的な生活習慣と学習習慣を身に付けさせ、生徒一人一人の進路実現を図るとともに、自らの志に向かって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ生徒の育成をめざす。			
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
職員の協働によって学校全体が落ち着いた、生徒の自己実現を可能とする「生きる力」を育む取組等により、地域や中学校からの信頼を得てきた。今後学習面や生活面で基礎基本の習得を徹底させ、生徒の社会的自立に努める。	1 基礎学力の定着と自学自習力の習得	授業規律を保ち、興味・関心もてる“わかる授業”を実践することで、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。		
	2 規範意識の向上と健やかな心身の育成	全職員の共通理解のもと、きめ細かな生徒指導を行うことで、基本的学習習慣の徹底と規範意識の高揚を図る。		
	3 進路希望実現のためのキャリア教育の充実	系統的なキャリア教育を通して、生徒の進路意識を高め、主体的な進路実現を支援する。		
	4 人権教育の推進、人権に関する意識・態度・行動力の育成	すべての教育活動を通して人権意識を高め、人権が尊重され一人一人が大切にされることが実感できる学校づくりを推進する。		
	5 地域から信頼される学校づくりの推進	地域に根差し信頼される学校の実現のために、学校の様々な情報を保護者や地域社会に向けて積極的な広報活動を推進する。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
学務部	教務課	基礎基本を身に付けさせるための積極的指導	「キャリアスタディ」における事前・事後指導に力を入れ合格率向上を図る。 小テストなどを定期的に行い、生徒の理解度把握による「わかる授業」の展開を図る。	
		学習意欲を向上させるための積極的指導	「観点別評価」を利用した授業への積極的参加を図り、「ほめて伸ばす教育」を実践する。 生徒部、学年と連携し、欠席・遅刻の数を最小限におさえる。	
	情報管理課	ICT活用研修を推進し、教員の授業力向上、生徒の基礎学力向上	研究授業におけるICT機器の活用を推進し、ICTの多様な活用方法を全教職員で共有する。 研修図書課と連携し、主体的・対話的で深い学びとICTの活用に関連させた研修を実施する。	
生徒部	生徒指導課	学校生活の安定を図る基本的学習習慣の確立	教職員全体で生徒指導に当たるよう生徒指導課による組織的な指導体制を構築する。 個に応じた指導を充実・展開していくために、声掛け運動等を積極的に行う。	
		学校の活性化を目指した部活動の推進	部活動を活性化させるために、学年、生徒会、生徒指導課で連携し、学校生活の充実に繋げる。 新入生歓迎行事や体験入部を充実させ、部活動加入率を学校全体で60%以上にする。	
	保健環境課	保健室利用許可証を活用した生徒の基本的学習習慣の確立や体調管理	各学年と連携し、生徒の体調管理や基本的学習習慣の見直し・改善に取り組む。 学年やスクールカウンセラー、訪問相談員と連携して生徒の対応にあたる。	
進路部	進路指導課	各学年の進路指導の充実による進路実現	クラス担任との連携を密にし、生徒の実態や社会情勢に応じた精選した情報を発信する。 面接指導や企業訪問を計画的に実施し、長期休業中の希望者課外を計画し実施する。	
		進路関連行事のより一層の充実を図る。	進路の手引きによる進路指導に関わる情報を提供し、進路行事を計画的に実施する。 キャリア学習課と連携し、進路ガイダンスの充実を目指す。	
	キャリア学習課	「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」「キャリア形成」の円滑な実施と運営	「産業社会と人間」において3年間のキャリア教育を通じた進路選択に向けた指導を行う。 該当学年と連携して「総合的な探究の時間」「キャリア形成」の充実を図る。 カリキュラムガイダンスの学習内容の充実を図り、ミスの無い科目選択を実施する。	
研修部	研修課	研究授業の推進	研究授業の内容を充実させ、ICTやアクティブラーニングを使った授業展開の方法を確立させる。 研究授業の参観者と協議会の参加者を増やし、科を超えて授業研究を行う場を設ける。	
		職員研修の充実と精選	時宜に応じた職員研修を行い、教育活動において重要な案件について職員間の共通理解を図る。 外部講師を招き、職員が多くの知識を吸収できるような研修を企画する。	
	庶務課	体験入学や広報活動を通しての中学生や地域へのPRの充実	学校の様々な魅力を校外にPRできるよう、刊行物の充実など広報活動を積極的に行う。 体験入学の内容を再考し、学校生活や進路実績など多くの情報提供を行えるようにする。	
人権・同和教育部	特別支援教育推進のための呼び掛けと組織的な支援体制構築の推進	PTA活動の活性化と、PTA総会の充実	他の分掌や保護者との協力体制を図り、学校との連携による企画や取組を効果的に行う。 PTA各委員会の業務内容を精選し、PTA活動の充実、協力体制の組織化を行う。	
		すべての教育活動を通して職員、生徒の人権意識を高める指導の推進	人権・同和教育授業の事前学習を計画的に行い、効果的な人権教育ができるように努める。 人権学習の振り返りや人権教育アンケートを通して、状況に応じた効果的な指導を行う。	
	第1年次	基本的学習習慣の確立 竜徳生としての自覚の醸成と自立心の育成	特別支援コーディネーターと連携して生徒や保護者の状況を把握し、カウンセラー等に繋げる。 「引継ぎシート」を基に、「個別の指導計画」等を作成し、一貫した生徒支援を行えるようにする。 家庭との連携・協力体制を構築し、関係分掌と連携することで、個に応じた指導を実践する。 挨拶の習慣を身に付けさせるため、教員自らが率先して挨拶の励行に努める。 問題行動を未然に防ぐため、ルールやマナー、集団生活に関する指導を徹底する。 責任感をもたせるため、係活動などの役割を明確にする。	
第2年次	基本的学習習慣の確立	家庭との連絡を密に行い、情報共有に努める。 与えられた課題やすべきことを明確にし、高校生活の基礎・基本が定着できるよう指導する。		
	互いに尊重し合える人間関係の構築	自己理解・他者理解を促し、互いに協力し助け合う力を身に付けさせる。 丁寧な言葉遣いを行い、身近な大人として生徒の模範となる行動をとる。		
第3年次	進路目標の達成	個人面談等を利用して、生徒の適正に応じた進路が実現できるように支援する。 進路情報を適切に発信して、進路意識を高めさせ、計画的に取り組むよう指導する。		
	基本的学習習慣の確立	保護者と協力して、自立した生活態度を身に付けさせる。 集団の一員として責任ある行動を取り、周囲の人へ感謝する気持ちを育てる。		

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

評価項目以外のものに関する意見